

平成29年3月29日  
株式会社日本政策金融公庫  
岡山支店

**『事業性評価融資』スキームを活用し岡山県で初融資  
～エネルギー技術を組合せた世界最先端の施設園芸事業に対する取組みを支援～**

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）岡山支店農林水産事業は、バイオマス発電と栽培施設を組み合わせた最先端の施設園芸事業を開始する株式会社サラ（本社：笠岡市）に対して、シンジケートローンと協調して、融資支援を行いましたので、お知らせします。

なお、今回の日本公庫の融資は、農業者の「経営者能力」や「経営戦略」をより積極的に評価する、『事業性評価融資』という新たな審査スキームを活用したもので、岡山県で初めてとなります。

#### 《ポイント》

##### ○新たなビジネスモデルとなる最先端技術を活用した事業に対する支援

株式会社サラが行う事業は、笠岡湾干拓地を活用したバイオマス発電と半閉鎖型ガラス室栽培施設を組み合わせた世界最先端の施設園芸事業です。

木質バイオマスによる再生資源エネルギーの効率的な利用や、温度や湿度などICTを活用した高度な環境制御を行うことにより、トマトやパプリカなど、低コストで高品質な野菜の周年・計画生産を実現し、地域の雇用創出が期待されます。

日本公庫は、新たなビジネスモデルとなる事業と評価し、当社の経営展開を支援することとしました（詳細は別紙1参照）。

##### ○日本公庫とシンジケートローンとの協調融資

本事業は、発電規模10メガワットの「バイオマス発電」と高度な環境制御による「大規模最先端農業」が融合した、総事業費140億円の大規模プロジェクトとなります。日本公庫は、本事業に必要な資金として、事業性評価融資という審査スキームを活用し、中国銀行が主幹事となって組成したシンジケートローンと協調して、総額69億円の融資支援を行うことを予定しています。

今後とも、日本公庫は民間金融機関との連携を一層強化し、地域経済の活性化を図るべく、最適な金融支援や本業支援を実施してまいります。

## ○『事業性評価融資』による担い手の育成・経営サポートの強化

日本公庫では、これまでも担保や保証人に必要以上に依存することなく、農業者の事業性を評価した融資を行ってきましたが、平成28年2月に構築した『事業性評価融資』の審査スキームにより、農業者の経営能力、経営戦略及び投資する事業の事業性等を定型化した項目等により手法・結果を見える化し、積極的に評価して融資を行います（詳細は別紙2参照）。

これにより、これまで以上に積極的な融資対応を図るとともに、農業者の目標達成に向けたきめ細やかなフォローと支援を行うなど、コンサルティング機能を一層発揮します。

日本公庫は、今後も『事業性評価融資』の審査スキームを活用するとともに、地元行政や金融機関と連携して、担い手農業者の育成や経営サポートを行ってまいります。

### <お問い合わせ先>

日本政策金融公庫岡山支店農林水産事業 Tel：086-232-3613（担当：坂口、千原）  
〒700-0904 岡山市北区柳町1-1-27 太陽生命岡山柳町ビル9階